

みえライフイノベーション推進事業のご案内

製品やサービスが次々に生み出されていくしくみの構築を目指して、今年度から次の事業に新たに取り組んでいきます。

医療・福祉機器等の製品化促進事業

事業内容

本事業では、医療・福祉現場で必要とする医療・福祉機器、サービス等の開発のしくみを構築し、製品開発を促進することにより、医療・福祉産業の活性化を図ります。また、医療・福祉環境の改善を図るとともに、県民に提供する医療技術の高度化、高齢者・障がい者の生活の質の向上をめざします。

みえメディカルバレープロジェクトでは医療・福祉機器産業への県内ものづくり企業の積極的な参入支援を実施していきます。

事業の流れ

医療・福祉現場のニーズ収集
医療従事者のニーズ・アイデア収集

開発促進会議
専門家により収集したニーズが実現可能かどうか検討

ニーズ公開マッチング
ニーズを公開し、試作に取り組む県内ものづくり企業を募集

試作品製作・改良
試作品の製作・ブラッシュアップ

製造や販売に向けたマッチング
医療機器メーカーや販売先とのマッチング

製品化

サポート



他にも次の支援を予定しております。詳細については、順次HP等で公開していきます。

医療・福祉機器関連セミナーの開催

業界動向や薬事法・介護保険制度等についてのセミナーを開催します。
平成23年10月 平成24年1月頃予定

医療・福祉機器の開発に向けた相談窓口の設置

相談窓口：株式会社CLINICAL STUDY SUPPORT
E-mail: ask-mie@jp-css.com
※相談は、メールにて承ります。

(例) 医療機器：カテーテル、血圧計、メス等
福祉機器：車イス、義手・義足、入浴用リフト等

みえメディカル研究会の主旨からのメッセージ

みえメディカル研究会では、産学官民の連携による医療・健康・福祉分野での研究・技術開発をめざして活動しています。本事業をサポートしていく医療・福祉機器関連の4研究会の主旨から、本事業の推進に向けてメッセージをいただきましたのでご紹介します。

医用工学研究会

三重大学大学院工学研究科 稲葉 忠司 教授

本研究会では、材料の特性を活かした医用製品製作に関する研究テーマについて、産・官・学(医・工)の連携を深めることを目的としています。この研究会でのディスカッションをきっかけに共同研究に発展した研究テーマとしては、「新しい脊椎疾患治療用体内固定具の開発」や「形状記憶合金製体内釘の開発」などが挙げられます。



電子システム研究会

三重大学大学院地域イノベーション学研究科 鶴岡 信治 教授

本研究会は、医療福祉分野において、「電子工学、情報工学を主体とした医用検査・診断支援システム、医療情報管理システム等を産学官の連携で実現すること」を目指し、会員間で種々の情報交換を行い、種々の研究やシステム開発を推進することを目的とし、活動しています。関心がある方は気楽に入会し、意見交換し、自分の中でイノベーションを体験しましょう。



福祉用具・ものづくり研究会

鈴鹿工業高等専門学校機械工学科 白井 達也 准教授

本研究会は、利用価値の高い、真に使われる福祉用具の開発を目指し、三重県内の福祉用具に関するニーズ、福祉用具開発のための技術の獲得を行っています。超高齢社会に向けて三重県独自の高度な技術を要する福祉用具の製品化を目指します。ハンディキャップを持つ方にとって使いやすい製品とは何かを考えることで、製品のユニバーサルデザイン化のヒントを得られるでしょう。幅広い専門分野の方々参加をお待ちしています。



センシング技術実用化研究会

三重大学大学院生物資源学研究科 橋本 篤 教授

近年、安全・安心に関する対策が社会的な重要課題となっていますが、様々な現場対応型の計測、評価に関する取組が進んでおりません。このような問題解決の科学的・技術的な中心部分を担うのがセンシングです。本研究会では、バイオ・食品・医療・福祉関連の研究と現場ニーズ、研究シーズに関する情報の共有化を中心に連携の強化を図り、これまでに築いたネットワークの有効な活用やさらなる展開を試みる予定です。



地域資源を活用した医薬品等の開発検討のための調査事業

●目的

三重県には、薬用植物等植物資源や海洋生物資源などの豊かな地域資源があります。そこで、そこで、みえメディカルバレープロジェクトでは、これらの地域資源を有効活用し、付加価値の高い製品である医薬品・医薬部外品・化粧品(「医薬品等」とします。)を開発することで、地域産業の活性化と地域資源のブランド化をめざしています。今年度は、地域資源を活用した医薬品等への継続的な開発を促進するしくみづくりの検討を行います。

●事業の実施概要

